

【山崎主宰の俳句】

紙 鳶

山崎 聰

霜の朝晩節夏々と通る  
ほのあかきものいくつか冬至粥  
十二月砂嚙む心地して夜明け  
早起きの子供に朝日いかのぼり紙鳶  
あるときは熱い涙を雪おんな  
人の日をなよなよあるき黄粉餅  
さりながら越中八尾雪のなか  
反骨のいまだくすぶりどんど焼  
死者に光をやまなみるいと凍る  
自転車が農道を行くおとなの日